

読者の声を募集！

読者の声を募集致します。ふるってご投稿をお願いします。

また、取り上げて欲しい特集、連載講座、土木用語、論説や報文の内容に関する質問、現場で困っている点、さらに、土技資の改革についてのご意見や要望などをホームページ又はメールでお送り下さい。

URL : <https://www.pwrc.or.jp>

E-mail : [dokusha\(a\)pwrc.or.jp](mailto:dokusha(a)pwrc.or.jp) (※メールを送信する場合は(a)を@と変更して下さい。)

購読の案内

月刊 土木技術資料の購読のご案内をいたします。

＜購 読 料＞ 土木技術資料 1冊 定価 ￥ 1,320 (本体1,200+税10%・送料共込)

年間購読料 ￥15,840 (税10%・送料共込)

月刊土木技術資料購読申込書			
(いずれかに ☒ を付けてください) ☐ 団体購読 ☐ 個人購読			
(いずれかに ☒ を付けてください) ☐ 年間購読 年 月号より 部			
☐ 特定号のみ 年 月号 部			
お 届 け 先	ご 住 所	〒	
	お名前または会社名		
	所属部署(会社の場合)		
	担当者名(会社の場合)		
	TEL / FAX	/	
	E-mail		
※購読料の請求宛先がお届け先と異なる場合は、請求宛先を下欄にご記入ください。			
請 求 宛 先			

ご購入中の方でお申し込み内容に変更が生じた方も、ご連絡ください。

月刊土木技術資料のお問い合わせ・お申し込み先

一般財団法人土木研究センター 技術研究所 庶務・広報部 栗原

〒300-2624 茨城県つくば市西沢2-2

TEL : 029-864-2521 FAX : 029-864-2515

E-mail : [mail\(a\)pwrc.or.jp](mailto:mail(a)pwrc.or.jp) (※メールを送信する場合は(a)を@と変更して下さい。)

購読のお申し込みは、FAXまたはE-mailをお願いします。

また、土木研究センターのホームページ (URL : <https://www.pwrc.or.jp>) から直接申し込みできます。

なお、代金は原則前払いとなっておりますが、後払いも可能です。

お知らせのページ

国立研究開発法人土木研究所

令和8年度土木研究所講演会を開催 AI等を活用した土木技術の最前線

土木研究所では、下記のとおり令和8年度土木研究所講演会を開催します。
本講演会は、前半「土研のイチオシ!」、後半「AI等を活用した土木技術の最前線」をテーマに、当所における研究成果や最近の土木技術に関する話題・動向について、土木研究所を牽引する研究者からの講演及びポスターセッションを行います。加えて、特別講演として東京大学 特任教授 全 邦釘 氏から「インフラ分野でのAI最前線」と題してご講演いただきます。

さらに、講演内容に対する理解をより一層深めていただくために質問タイムを設けております。
多くの皆様のご参加をお待ちしております。

記

- 1 主 催：国立研究開発法人土木研究所
- 2 後 援：国土交通省 / 公益社団法人土木学会 / 一般社団法人建設コンサルタンツ協会 /
一般社団法人全国建設業協会 / 一般社団法人日本建設業連合会 / 一般財団法人土木研究センター
- 3 日 時：令和8年10月6日（火）10：00～17：20（受付開始 9:30）
- 4 場 所：一橋講堂（東京都千代田区一ツ橋2-1-2）
- 5 参加費：無料
 - ・ 本講演会への参加は、原則、事前申込みをされた方のみとさせていただきます。
 - ・ Youtubeによるライブ配信を実施します。詳細は、土木研究所ホームページをご確認ください。
- 6 プログラム（注：プログラムの詳細は、土木研究所ホームページをご確認ください。）
 - 10:00～10:10 開会挨拶・概要説明 理事長 藤田 光一
 - ◆講演（土研のイチオシ!）
 - 10:10～10:35 「土石流の動態を3次元点群データで捉える～LiDARを用いた土石流観測の取り組み～」
土砂管理研究グループ 上席研究員 坂井 佑介
 - 10:35～11:00 「山岳トンネル工事の苦渋作業からの解放
～プレキャスト覆工の現場実装に向けた技術開発～」
道路技術研究グループ 主任研究員 小泉 悠
 - (11:00～11:10 休憩)
 - 11:10～11:35 「勝海舟が伝えた堤防漏水対策技術の再評価と設計法の提案」
地質・地盤研究グループ 上席研究員 石原 雅規
 - 11:35～12:00 「下水道更生管の長期強度予測の新展開～50年後の耐久性を約1年で評価～」
材料資源研究グループ 上席研究員 宮本 豊尚
 - (12:00～13:00 昼休み)
 - 13:00～14:00 ポスターセッション（同会場 2 階）
 - ◆講演（AI等を活用した土木技術の最前線）
 - 14:00～14:25 「洪水中の川底の変化を知りたい！～洪水の河床高を把握する技術～」
河道保全研究グループ 主任研究員 萬矢 敦啓
 - 14:25～14:50 「暴風雪・大雪時の道路ネットワーク機能への影響を最小化へ！
～過去の災害対応と今後の予測値を活用した判断支援システム～」
寒地道路研究グループ 主任研究員 原田 裕介
 - (14:50～15:00 休憩)
 - ◆特別講演
15:00～15:45 「インフラ分野でのAI最前線」 東京大学 特任教授 全 邦釘
 - ◆講演（AI等を活用した土木技術の最前線）
 - 15:45～16:10 「ここまで再現できる！排水機場のデジタルツイン」
技術推進本部 主任研究員 平地 一典
 - 16:10～16:35 「自動設計による河川デザインの高速度～20秒で100案を作成、設計の省人化に期待～」
流域水環境研究グループ グループ長 中村 圭吾

(16:35～16:40 休憩)

◆質問タイム

16:40～17:10 土木研究所の研究におけるAI活用に関する総括・質疑応答

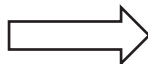
17:10～17:20 閉会挨拶 理事・寒地土木研究所長 宮藤 秀之

(敬称略)

7 お申込み：

下記のウェブページ（「令和8年度土木研究所講演会」と検索）において、**事前申込み**を予定しています。
(現在、ページ作成中です。)

こちらからもアクセスできます。



<https://www.pwri.go.jp/jpn/about/pr/event/2026/1006/index.html>

※ ご提供いただいた個人情報は、適正に管理させていただくとともに、国立研究開発法人土木研究所が主催する講演会等のご案内以外の目的には使用しません。

8 お問合せ先：

令和8年度土木研究所講演会運営事務局

1. 講演会申込・配信関係

<株式会社ディーワークス>

TEL: 03-5835-0388 FAX: 03-5835-0296

MAIL: doboku2026@d-wks.net

2. 1以外のお問合せ

<国立研究開発法人土木研究所 企画部 研究企画課>

土木研究所講演会担当

TEL: 029-879-6751 FAX: 029-879-6752

MAIL: kikaku@pwri.go.jp

9 CPDプログラム：本講演会は、土木学会のCPDプログラム認定済みです。

※ CPDにかかる受講証明書は、1日参加の方にのみ後日送付します。

○会場参加の方

引換券は当日の受付時に配布致します。講演会終了後に受付に設置した引換券回収箱にご提出ください。講演会終了前にご提出いただいた場合は発行できません。

○オンライン参加の方

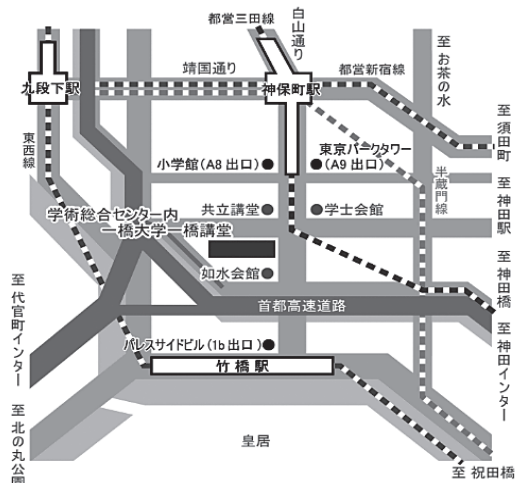
YouTubeによるライブ配信の視聴にて参加された方に、受講後のアンケート(講演後、アンケートフォームURLを送付します)において、受講して得られた所見(学びや気付き)を、100字以上で記載してご提出いただくことが、CPDに係る受講証明書のための条件となります。

会場：一橋講堂

住所：〒101-8439 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2

地図URL：<https://www.hit-u.ac.jp/hall/accessjp.html>

【地図】



【下車駅】

- ・ 東京メトロ半蔵門線、都営三田線、都営新宿線 神保町駅（A8・A9 出口）徒歩4分
- ・ 東京メトロ東西線 竹橋駅（1b 出口）徒歩4分

令和9年度国立研究開発法人土木研究所交流研究員の受入れについて

本制度は、国内の他機関に所属する職員等を土木研究所に受け入れ、研究活動を通じた人材育成や知見の共有を図ることで、土木技術水準の向上および、土木研究所と派遣元機関双方の業務の高度化に資することを目的としております。受入れ後は、土木研究所が提示する受入れ課題に基づき、研究業務に従事していただきます。研究活動を通じて、以下のような経験を得ることが可能です。

- ・学会等で研究成果を発表する機会がある
- ・土木研究所が実施する現場の技術指導や調査等に同行できる場合がある
- ・自己研鑽を通じて、技術士資格や学位の取得をされた方もいる

土木研究所の研究者とともに課題に取り組む中で、実践的な研究能力や新たな視点を養うことが期待されます。

応募手続きおよび受入れ可能な課題については、下記をご参照ください。

記

1. 受入れ開始日 <第1回応募締切> 令和9年4月1日以降
<第2回応募締切> 令和9年10月1日以降
2. 受入れ期間 6ヶ月以上・2年以下（最長3年まで延長する場合有り）
3. 応募締切日 <第1回応募締切> 令和8年12月11日（金）17:00まで（必着）
<第2回応募締切> 令和9年6月11日（金）17:00まで（必着）
4. 応募資格 経験年数4年以上（修士の場合2年以上）の職員を対象とします。
5. 受入れ課題 「令和9年度交流研究員受入れ課題一覧」のとおり。
6. 受入れ費用 受入れに要する費用（給与、旅費等）は応募機関の負担とします。
7. 応募方法 ホームページに掲載している以下の書類に必要事項を記入のうえ応募願います。
 - ・交流研究員受入れ申請書
 - ・交流研究員人事記録

<https://www.pwri.go.jp/jpn/employ/ukeire/index.html#06>
 ※応募書類にご記入頂いた個人情報については、交流研究員受入れ事務以外の目的で使用することはございません。
 ※国立研究開発法人土木研究所交流研究員受入れ規程
 国立研究開発法人土木研究所交流研究員受入れ取扱要領
<https://www.pwri.go.jp/jpn/employ/ukeire/pdf/kouryuu.pdf>
8. その他
 - ・受入れ決定は第1回応募締切分については1月中旬頃、第2回応募締切分については7月中旬頃の予定
 - ・受入れ課題名等は現時点での予定のため変更になる場合があります。
 - ・一つの研究チームに希望者が集中した場合等は、チームの指導可能人数や交流研究員制度の趣旨を踏まえ、調整させていただく場合があります。
 - ・民間会社等から交流研究員を受入れた場合、交流研究員の所属機関は受入れチーム等（上席研究員単位で判断）における契約の相手方となることができません。このため、受入れチーム等における業務発注等の入札等に参加できませんので予めご了承ください。（受入れ期間中のみ）
 - ・受入れ開始日は令和9年4月1日（第1回応募締切分）および令和9年10月1日（第2回応募締切分）からとじていますが、その他の受け入れ開始日を希望される場合は個別にご相談ください。
9. 提出・問合せ先 国立研究開発法人土木研究所 企画部研究企画課
交流研究員受入担当
〒305-8516 茨城県つくば市南原1番地6
TEL：029-879-6751 FAX：029-879-6752
URL：<https://www.pwri.go.jp/>

令和9年度交流研究員受入れ課題一覧

別紙

番号	受入れ部署		課 題 名
	局・部・グループ	チーム・班・担当	
1	SIP 事務局	戦略的イノベーション 研究推進事務局 (勤務先:東京都千代田 区神田相生町1 秋葉原 センタープレイスビル4F)	SIP スマートインフラマネジメントシステムの構築に関するプ ロジェクトマネジメント
2	技術推進本部	先端技術	自動施工に関する技術開発(自律施工技術基盤「OPERA」 の開発含む)と、現場適用に関する研究
3	技術推進本部	先端技術	災害初動対応に用いる無人化施工の高度化に関する研究
4	技術推進本部	先端技術	土木機械設備に関する維持管理の効率化・高度化に関する研究
5	技術推進本部	先端技術	土木機械設備に関する信頼性向上及び遠隔化・自動化・集 中管理に関する研究
6	技術推進本部	先端技術	インフラ管理システムの高度化・省力化・効率化に関する研究
7	地質・地盤	地質	道路斜面災害危険箇所の抽出・評価手法に関する研究
8	地質・地盤	地質	物理探査による土工構造物内部の調査に関する研究
9	地質・地盤	地質	光ファイバを用いた道路盛土や河川堤防の地盤調査に関する研究
10	地質・地盤	地質	地質・地盤リスクマネジメントに関する研究
11	地質・地盤	地質	自然由来重金属等含有岩石の有効利用に関する研究
12	地質・地盤	地質	ダム等の岩盤評価に関する研究
13	地質・地盤	地質	貯水池地すべりの安定性評価に関する研究
14	地質・地盤	土質・振動	河川構造物の越流・浸透・耐震・維持管理に関する研究
15	地質・地盤	土質・振動	切土のり面における地質・地盤リスクマネジメントに関する技術開発
16	地質・地盤	土質・振動	高品質な盛土の整備・効率的な点検技術に関する技術開発
17	地質・地盤	土質・振動	液状化に関する地盤調査法および構造物への影響評価法 に関する研究
18	地質・地盤	施工技術	グラウンドアンカーの特性を考慮した維持管理手法に関する研究
19	地質・地盤	施工技術	軟弱地盤対策等における調査、設計、施工、維持管理手法 に関する研究
20	地質・地盤	施工技術	道路排水施設の設計、施工、維持管理手法に関する研究
21	地質・地盤	施工技術	石灰系固化材による改良土で構築する道路盛土の設計手法 に関する研究
22	地質・地盤	施工技術	道路の擁壁、補強土壁等の調査、設計、施工、維持管理の 手法に関する研究
23	地質・地盤	施工技術	道路土工構造物の不確実性を考慮したマネジメント手法に関する研究
24	流域水環境	流域生態	生態系ネットワークを支える河川環境の保全・再生手法に関する研究
25	流域水環境	流域生態	地域の魅力を高める水辺空間形成に関する研究
26	流域水環境	流域生態	治水と環境の両立を目指した河道管理技術に関する研究
27	流域水環境	流域生態	河川管理における環境 DNA の調査技術の実務利用・標準 化に関する研究
28	流域水環境	水質	水環境中の化学物質のモニタリング手法の効率化に関する研究
29	流域水環境	水質	水環境中のウイルス等の病原微生物の監視・制御技術に関する研究
30	流域水環境	水質	水環境監視における画像解析技術、リモートセンシング、ド ローン等の活用に関する研究
31	流域水環境	水質	流域規模での栄養塩管理技術に関する研究
32	流域水環境	水質	微生物情報を活用した下水管きよの劣化・腐食診断技術に関する研究
33	流域水環境	自然共生研究センター (勤務先:岐阜県各務原市 川島笠田町官有地無番地)	河川における環境目標の設定と実現に向けた予測技術の開 発に関する研究
34	流域水環境	自然共生研究センター (勤務先:岐阜県各務原市 川島笠田町官有地無番地)	気候変動を見据えた流量の変動管理手法に関する研究
35	流域水環境	自然共生研究センター (勤務先:岐阜県各務原市 川島笠田町官有地無番地)	半自動化による河道設計の迅速化に関する技術開発

36	流域水環境	自然共生研究センター (勤務先:岐阜県各務原市 川島笠田町官有地無番地)	ダム下流における流量変化が付着藻類・底生動物・魚類に 及ぼす影響の予測技術に関する研究
37	流域水環境	自然共生研究センター (勤務先:岐阜県各務原市 川島笠田町官有地無番地)	河川景観に馴染む護岸ブロックの評価手法に関する技術開発
38	流域水環境	自然共生研究センター (勤務先:岐阜県各務原市 川島笠田町官有地無番地)	流域総合水管理に資する生物多様性の評価とグリーンイン フラの導入に関する研究
39	流域水環境	自然共生研究センター (勤務先:岐阜県各務原市 川島笠田町官有地無番地)	河川地形データを活用した河川環境の評価手法の開発に関 する研究
40	河道保全	水工	ダム貯水地内堆砂管理手法の開発
41	河道保全	水工	ダム水理構造物の設計における3次元数値解析活用手法 に関する研究
42	河道保全	水工	ダム堆砂の下流還元およびその影響評価手法の開発
43	河道保全	水工	河川橋梁橋脚の洗掘現象を対象とした点検・診断に関する研究
44	河道保全	水工	土砂バイパストンネル内の土砂流下によるコンクリート損傷 対策技術に関する研究
45	河道保全	水工	河道二極化対策の効果の評価手法に関する研究
46	河道保全	河道監視・水文	流域治水対策の評価のための降雨流出・洪水伝播モデル改 良に関する研究
47	河道保全	河道監視・水文	非接触型流量観測手法の表面流速係数設定に関する研究
48	土砂管理	火山・土石流	大規模噴火による長期にわたる広域降灰時の土石流影響評 価に関する研究
49	土砂管理	火山・土石流	火砕物の堆積厚が斜面の浸透能に及ぼす影響に関する研究
50	土砂管理	火山・土石流	砂防施設の致命的な損傷対策手法に関する研究
51	土砂管理	火山・土石流	小粒径の土砂流出を捕捉する透過型砂防堰堤に関する研究
52	土砂管理	地すべり	予防的対策のための潜在的な地すべりの危険性評価に関する研究
53	土砂管理	地すべり	地すべり災害時の緊急対応の高度化に関する研究
54	土砂管理	地すべり	地すべり対策計画及び対策工設計の高度化に関する研究
55	道路技術	舗装	舗装構造の健全性に着目した点検技術の精度向上等に関する研究
56	道路技術	舗装	コンクリート舗装の長寿命化に向けた目地部等の設計法の 合理化に関する研究
57	道路技術	舗装	舗装の損傷原因に応じた長寿命設計・更新技術に関する研究
58	道路技術	舗装	アスファルト舗装における理論的構造設計手法の現場実装 に向けた研究
59	道路技術	舗装	社会構造の変化に対応した新しい舗装再生技術の開発
60	道路技術	舗装	脱炭素社会の実現に向けた低炭素舗装技術に関する研究
61	道路技術	トンネル	既設トンネルの対策工の耐荷力特性等の評価手法に関する研究
62	道路技術	トンネル	施工時データおよび点群データ等を活用したトンネル維持管 理の合理化に関する研究
63	道路技術	トンネル	山岳トンネルの膨張性地山における支保工の設計に関する研究
64	道路技術	トンネル	既設トンネルの外力性の変状の診断に関する研究
65	道路技術	トンネル	山岳トンネルの施工時データを活用したリスク評価による診 断の合理化に関する研究
66	道路技術	トンネル	山岳トンネルの補助工法の設計手法に関する研究
67	道路技術	トンネル	山岳トンネル施工時の合理的な支保選定に関する研究
68	水災害	水災害	民間企業における防災投資促進のためのリスクコミュニケー ション手法の開発
69	水災害	水災害	仮想洪水体験システムを用いたリスクコミュニケーション手法の開発
70	水災害	水災害	不確実性を付した洪水予測情報発信手法の開発
71	水災害	水災害	海外における気候変動適応策および水災害レジリエンス強 化策の実装
72	水災害	水災害	流域治水の計画策定支援技術の開発
73	水災害	水災害	洪水予測に基づく既設ダム等の治水機能の強化・発現技術の開発
74	水災害	水災害	中山間地中小河川、土砂・流木・洪水氾濫、ハザード評価手法の開発
75	水災害	水災害	降水予測と水循環モデルを統合した治水～平時～渇水が シームレスに表現できる水資源管理システムの開発研究

76	橋梁構造	管理システム・下部構造担当 (基礎班)	橋台及びアプローチ部の耐震性強化技術に関する研究
77	橋梁構造	管理システム・下部構造担当 (基礎班)	地盤改良工法の要求性能に対する評価手法に関する研究
78	橋梁構造	管理システム・下部構造担当 (基礎班)	河川洗掘に対応した橋梁下部構造の予防保全メンテナンスに関する研究
79	橋梁構造	管理システム・下部構造担当 (基礎班)	コンクリート構造の合理的設計法に関する研究
80	橋梁構造	管理システム・下部構造担当 (基礎班)	既設下部構造部材の要求性能に対する評価手法に関する研究
81	橋梁構造	管理システム・下部構造担当 (基礎班)	道路橋下部構造の設計及び施工に関する実態調査
82	橋梁構造	補修技術・耐震技術担当 (耐震班)	リスクマネジメントに基づく道路橋のレジリエンス技術に関する研究
83	橋梁構造	補修技術・耐震技術担当 (耐震班)	設置条件を踏まえた制震ダンパーの評価手法に関する研究
84	橋梁構造	補修技術・耐震技術担当 (耐震班)	地震後の道路橋の緊急措置判断に資する生成 AI の開発
85	橋梁構造	補修技術・耐震技術担当 (耐震班)	鋼製支承の予防保全型メンテナンスに関する研究
86	橋梁構造	補修技術・耐震技術担当 (耐震班)	損傷制御を考慮した橋梁の耐震補強方法に関する研究
87	橋梁構造	補修技術・耐震技術担当 (耐震班)	積層ゴム支承の性能確認試験方法に関する研究
88	橋梁構造	補修技術・耐震技術担当 (耐震班)	上部構造の塑性化を考慮した耐震設計法に関する研究
89	橋梁構造	予測評価・上部構造担当 (鋼橋班)	環境作用及び持続荷重を受ける鋼部材の耐久性設計の部分係数化に関する研究
90	橋梁構造	検査技術・コンクリート構造物担当 (コンクリート班)	コンクリート橋の塩害に対する予防保全型メンテナンスに関する研究
91	橋梁構造	検査技術・コンクリート構造物担当 (コンクリート班)	RC 床版の土砂化に対する予防保全型メンテナンスに関する研究
92	橋梁構造	検査技術・コンクリート構造物担当 (コンクリート班)	塩害による損傷を受けたコンクリート橋の外ケーブル工法による補強設計法に関する研究
93	橋梁構造	検査技術・コンクリート構造物担当 (コンクリート班)	コンクリート橋の桁端部の予防保全的塩害対策に関する研究
94	橋梁構造	検査技術・コンクリート構造物担当 (コンクリート班)	FRP シート接着されたコンクリート橋の限界状態設計法に関する研究
95	橋梁構造	検査技術・コンクリート構造物担当 (コンクリート班)	コンクリート構造接合部の合理的設計法に関する研究
96	材料資源	資源循環担当	下水道材料の劣化メカニズム及び耐久性評価に関する研究
97	材料資源	資源循環担当	下水処理場における資源活用の拡大及び脱炭素化手法に関する研究
98	材料資源	汎用材料担当	コンクリート構造物がおかれる塩害環境の評価に関する研究
99	材料資源	汎用材料担当	コンクリート構造物のアルカリ骨材反応抑制対策の信頼性評価に関する研究
100	材料資源	汎用材料担当	コンクリート構造物の予防保全型メンテナンスに関する研究
101	材料資源	汎用材料担当	樋門等河川構造物のメンテナンスサイクル構築に関する研究
102	材料資源	汎用材料担当	コンクリートの土砂や水流によるすり減りに関する研究
103	材料資源	汎用材料担当	未利用資源のコンクリートへの利用促進に関する研究
104	材料資源	先端材料・高度化担当	舗装用アスファルトの代替材料に関する研究
105	材料資源	先端材料・高度化担当	社会構造の変化に対応した舗装再生技術に関する研究
106	材料資源	先端材料・高度化担当	舗装の水浸破損対策の工法・材料に関する研究
107	材料資源	先端材料・高度化担当	コンクリート構造物の補修・補強材料に関する研究
108	材料資源	先端材料・高度化担当	橋梁の新しい防食塗料に関する研究
109	材料資源	先端材料・高度化担当	環境作用を受ける鋼橋防食材料の耐久性設計に関する研究

募集課題 合計109課題

お知らせ のページ

PWRC 一般財団法人 土木研究センター

★インターネット ホームページ

<https://www.pwrc.or.jp>

当センターまたは月刊「土木技術資料」に関するご意見・ご要望等は、下記メールアドレスにお送りください。
mail(a)pwrc.or.jp（※メールを送信する場合は(a)を@と変更して下さい。）

「2026年度 建設技術審査証明 新技術展示会」のご案内

「建設技術審査証明事業」は、新しい建設技術の活用促進に寄与することを目的として、民間において自主的に研究・開発された新技術について、民間からの依頼に基づき、新技術の技術内容を権威ある学識経験者等により技術審査を行い、その内容を客観的に証明して、普及活動に努める事業です。

建設技術審査証明協議会では、会員が実施する建設技術審査証明事業にて審査証明書を交付した各分野の優れた建設技術について、国、地方公共団体、民間企業等の方々に広く紹介するために、「2026年度 建設技術審査証明 新技術展示会」を開催いたしますので、関係者の多数のご参加をお待ちしております。

本新技術展示会は、国立研究開発法人土木研究所が主催する「土研新技術ショーケース 2026 in 東京」と同会場で開催いたします。

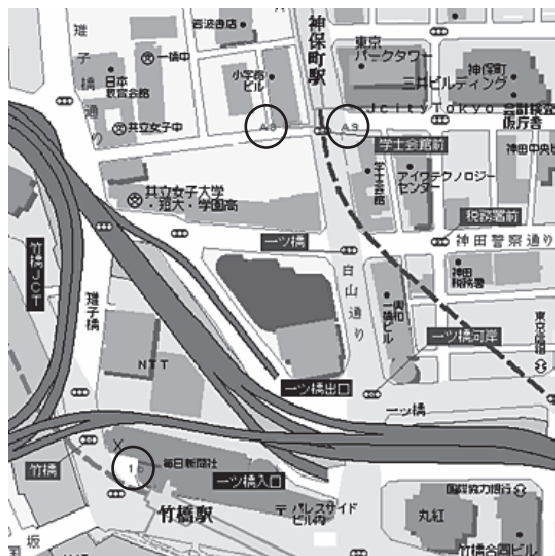
「2026年度 建設技術審査証明 新技術展示会」の概要

開催日時：2026 年9月8 日（火） 10：00～16：00（予定）

開催会場：一橋大学「一橋講堂」

（東京都千代田区一ツ橋2-1-2 学術総合センター内）

【会場へのアクセス】



- ・「神保町駅」 東京メトロ 半蔵門線
都営 三田線、新宿線 （A8・A9出口 徒歩4分）
- ・「竹橋駅」 東京メトロ 東西線 （1b出口 徒歩4分）

- お車でいらっしゃる方
会場には駐車場はございません。近隣の駐車場をご利用ください。

一橋講堂HP
<https://www.hit-u.ac.jp/hall/index.html>

会場へのアクセス
<https://www.hit-u.ac.jp/hall/accessjp.html>

※ご注意ください
日本教育会館「一橋ホール」は別の施設です。

参加料：無料

主催：建設技術審査証明協議会（当センターを含む14団体）

内容：建設技術審査証明協議会の会員である14団体において、概ね2025年8月～2026年7月の間に審査証明書を交付した技術（当センターで交付した32技術を含む142技術）のうち、新技術展示会に参加を希望された企業による21技術のパネル展示、およびプレゼンテーションが行われる予定です。詳細については、建設技術審査証明協議会ホームページ（<https://www.jacic.or.jp/sinsa/shinsa26/>）をご覧ください。

【展示会に関する問合せ先】

一般財団法人土木研究センター（建設技術審査証明協議会会員）

担当：企画・審査部 平石 知仁

〒110-0016 東京都台東区台東1-6-4 タカラビル3階

TEL：03-3835-3609

E-mail：kikaku(a)pwrc.or.jp（※メールを送信する場合は(a)を@と変更して下さい。）

一般財団法人土木研究センターにおいて、概ね2025年8月～2026年7月に審査証明書を交付（新規、内容変更、更新）した32技術のうち、以下の6技術についてパネル展示およびプレゼンテーションが行われます。

(1)技術名称：鉄筋の機械式継手を用いたSC杭の杭頭接合構法「FD-PHジョイント構法」

依頼者：日本ヒューム株式会社、岡部株式会社

技術概要：<https://www.jacic.or.jp/jacic-hp/node/19728>

(2)技術名称：高エネルギー吸収型落石防護柵「ループフェンス®」（LP250、LP500、LP750、LP1000、LP1500）

依頼者：ベルテクス株式会社

技術概要：<https://www.jacic.or.jp/jacic-hp/node/19733>

(3)技術名称：改良土（短繊維混合安定処理土）とジオグリッドを組み合わせた補強土壁「ハイビーウォール」

依頼者：大日本土木株式会社

技術概要：<https://www.jacic.or.jp/jacic-hp/node/19705>

(4)技術名称：施工性・維持管理に配慮した引張型グラウンドアンカー「KTB・引張型SCアンカー」

依頼者：黒沢建設株式会社

技術概要：<https://www.jacic.or.jp/jacic-hp/node/19726>

(5)技術名称：道路地下に適用可能な樹脂製貯留浸透槽の構造部材「アクアロード」

依頼者：積水化成品工業株式会社

技術概要：<https://www.jacic.or.jp/jacic-hp/node/19722>

(6)技術名称：孔壁内面に目粗し処理を施したあと施工せん断補強鉄筋「スパイラルアンカー」

依頼者：前田建設工業株式会社、フジミ工研株式会社

技術概要：<https://www.jacic.or.jp/jacic-hp/node/19732>

審査証明書交付技術の紹介

建設技術審査証明書交付技術の概要

【内容変更、更新した建設技術審査証明】

◆SECコンクリート

副 題：性能向上のために分割練混ぜをしたコンクリート

依 頼 者：株式会社I K K

証 明 番 号：建技審証第0309号

証明年月日：2026年3月30日 内容変更

有効期限：2028年8月20日

連絡先：株式会社I K K 技術本部 開発部

〒102-0083 東京都千代田区麹町5丁目1番地 麹町弘済ビルディング TEL：03-6271-7211

◆ガチカムジョイント

副 題：鋼管杭・鋼管矢板の機械式継手

依 頼 者：日本製鉄株式会社

証 明 番 号：建技審証第1601号

証明年月日：2026年4月20日 内容変更・更新

有効期限：2031年2月14日

連絡先：日本製鉄株式会社 建材開発技術部

〒100-8071 東京都千代田区丸の内2-6-1

TEL：03-6867-4111

◆ハイメカネジ®

副 題：鋼管杭・鋼管矢板の機械式継手

依 頼 者：J F E スチール株式会社

証 明 番 号：建技審証第1101号

証明年月日：2026年5月10日 内容変更・更新

有効期限：2031年5月9日

連絡先：J F E スチール株式会社 建材センター 建材技術部 土木技術室

〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-3

TEL：03-3597-4469

◆スパイラルアンカー

副 題：孔壁内面に目粗し処理を施したあと施工せん断補強鉄筋

依 頼 者：前田建設工業株式会社、フジミ工研株式会社

証 明 番 号：建技審証第1402号

証明年月日：2026年5月18日 内容変更

有効期限：2029年3月16日

連絡先：前田建設工業株式会社 I C I 総合センター

〒302-0021 茨城県取手市寺田5270

TEL：0297-85-6171

◆フリップバー

副 題：プレートを摩擦圧接した機械式定着鉄筋

依 頼 者：株式会社安藤・間、株式会社伊藤製鐵所

証 明 番 号：建技審証第0903号

証明年月日：2026年5月18日 内容変更

有効期限：2029年4月22日

連絡先：株式会社伊藤製鐵所 技術開発部

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町1-3-1 NBF小川町ビルディング5F

TEL：03-5829-4631

(建設技術審査証明事業についてのお問い合わせ先)

一般財団法人土木研究センター 企画・審査部

〒110-0016 東京都台東区台東1丁目6番4号 タカラビル3F

TEL：03-3835-3609 FAX：03-3832-7397

E-mail：kikaku(a)pwrc.or.jp (※メールを送信する場合は(a)を@と変更して下さい。)

土木研究センター刊行物一覧

刊 行 物 名	発行年月	判型	頁	定価（10%税込）		送料
				一般	賛助会員	
「耐候性大型土のう積層工法」設計・施工マニュアル [第2回改訂版]	R5.5	A4	125	1,980	1,782	別
陸上工事における深層混合処理工法 設計・施工マニュアル【増補版】	R4.4	A5	342	4,950	4,455	別
BEACHES IN OKINAWA AND RECENT CHANGES,SECOND EDITION	R3.7	A4	455	8,800	7,920	別
「ハイビーウォール」設計・施工マニュアル	R3.3	A5	299	4,730	4,257	別
土木技術者のためのプロフェッショナルの姿勢と視点	R2.6	B5	237	2,200	1,980	別
土工構造物の性能の評価と向上の実務	R1.8	A4	316	3,850	3,465	別
のり面表層保護工「GTフレーム工法 [®] 」設計・施工マニュアル 改訂版	H30.11	A4	125	2,640	2,376	別
山留め式擁壁「親杭パネル壁」設計・施工マニュアル 改訂版	H29.11	A4	160	2,420	2,178	別
のり面保護用連続繊維補強土 「ジオファイバー工法」設計・施工 マニュアル 改訂版	H29.6	A4	78	2,420	2,178	別
「箱型擁壁」工法 設計・施工マニュアル	H28.7	A4	109	2,750	2,475	別
鉄鋼スラグ路盤設計施工指針	H27.3	A4	110	3,300	2,970	別
「ラブルネット積層工法」設計・施工マニュアル	H27.1	A4	114	2,090	1,881	別
アダムウォール（補強土壁）工法 設計・施工マニュアル	H26.12	A5	330	4,730	4,257	別
盛土の性能評価と強化・補強の実務	H26.10	A4	228	3,300	2,970	別
補強土（テールアルメ）壁工法 設計・施工マニュアル （第4回改訂版）	H26.8	A5	477	5,500	4,950	別
多数アンカー式補強土壁工法設計・施工マニュアル 第4版	H26.8	A5	397	5,280	4,752	別
「海岸侵食の実態と解決策」宇多高明著 CD-ROM版	H26.6	—	304	3,850	3,465	別
ジオテキスタイルを用いた補強土の設計・施工マニュアル（第2回改訂版）	H25.12	A5	457	6,050	5,445	別
建設発生土利用技術マニュアル（第4版）	H25.12	A5	204	2,200	1,980	別
わが国の免震橋事例集 （特別価格）	H23.12	A4	247	942	848	別
道路橋の免震・制震設計法マニュアル（案） （特別価格）	H23.12	A4	288	1,257	1,131	別
全素線塗装型PC鋼より線を使用したPC構造物の設計・施工ガイドライン	H22.3	A4	162	3,300	2,970	別
ジオテキスタイルを用いた軟弱路床上舗装の設計・施工マニュアル —路床／路盤分離材としての利用— （特別価格）	H21.11	A4	122	1,650	1,485	別
建設工事で遭遇する廃棄物混じり土対応マニュアル	H21.10	B5	113	4,400	3,960	別
落橋防止構造設計ガイドライン（案）	H17.7	A4	73	4,191	3,771	別
土木コンクリート構造物のはく落防止用 赤外線サーモグラフィによる変状調査マニュアル	H17.3	A4	108	4,713	4,242	込
グラウンドアンカー受圧板設計・試験マニュアル	H16.12	A4	83	3,300	2,970	別
超早強コンクリート利用技術マニュアル	H12.9	A5	80	3,300	2,970	別
発生土利用促進のための改良工法マニュアル	H9.12	A4	177	4,400	3,960	別
熱赤外線映像法による吹付のり面老朽化診断マニュアル	H8.1	A4	125	4,273	3,846	込
コンクリートの耐久性向上技術の開発	H1.5	A4	438	8,380	7,542	込

刊行物の斡旋

鹿島出版会・大成出版社刊行物

刊 行 物 名	発行年月	判型	頁	定価（10%税込）		送料
				一般	賛助会員	
建設工事で発生する自然由来重金属等含有土対応ハンドブック	H27.3	A4	101	2,200	1,980	別
建設工事で遭遇する地盤汚染対応マニュアル〔改訂版〕	H24.4	B5	160	2,640	2,376	別
建設工事で遭遇するダイオキシン類汚染土壌対応マニュアル〔暫定版〕	H17.12	B5	128	2,420	2,178	別
土壌のダイオキシン類簡易測定法マニュアル	H18.4	B5	84	2,090	1,881	別

刊行物のお問い合わせ・お申し込み先

一般財団法人土木研究センター 技術研究所 庶務・広報部 梅内
〒300-2624 茨城県つくば市西沢2-2
TEL：029-864-2521 FAX：029-864-2515
E-mail：mail(a)pwrc.or.jp（※メールを送信する場合は(a)を@と変更して下さい。）
購入のお申し込みは、FAXまたはE-mailをお願いします。
また、土木研究センターのホームページ（URL：https://www.pwrc.or.jp）からも
直接申し込みできます。
なお、代金は送付する図書等に同封します請求書にてお支払い下さい。

コピーサービスの紹介

研究報告書等のコピーサービス

当センターが行った共同研究報告書、各種技術マニュアル、また土木に関する研究機関の報告書等について、コピーサービスを行っています。

研究報告等の文献リストは、当センターのホームページでご覧になれます。

ホームページ（URL：https://www.pwrc.or.jp）を開いて、「書籍・刊行物等」「コピーサービス」をクリックしていただくと文献リスト（エクセル版）が表示されます。

コピーサービスのお問い合わせ・お申し込み先

一般財団法人土木研究センター 技術研究所 庶務・広報部 中島
〒300-2624 茨城県つくば市西沢2-2
TEL：029-864-2521 FAX：029-864-2515
E-mail：mail(a)pwrc.or.jp（※メールを送信する場合は(a)を@と変更して下さい。）
購入のお申し込みは、FAXまたはE-mailをお願いします。
また、土木研究センターのホームページ（URL：https://www.pwrc.or.jp）からも
直接申し込みできます。
なお、代金は送付する図書等に同封します請求書にてお支払い下さい。

広 告 目 次

一般財団法人土木研究センター ……表紙2 (株) 東京建設コンサルタント ……表紙4
パシコ貿易 (株) ……表紙3

広告一手取扱 ㈱サンタナアートワークス 〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-21-5 井手口ビル4F TEL 03-3664-0118・FAX 03-3664-0138